



請願の趣旨

令和4年6月に京都大学医学部と滋賀医科大学から市長宛に提出された要望書により、長浜市の医療再編の議論が進められているが、経営形態検討委員会での資料の書き換えや意見対立、また、タウンミーティングでの市民の意見や病院職員の声を聞くと、このままでは医療崩壊が起きるのではと心配されます。

特に、ただでさえ医療人材の確保困難な北部地域においては、湖北病院の医師や看護師等から多くの退職者や転職者が生じることとなれば、現在の医療提供体制が維持できなくなると大いに危惧されます。

長浜市立湖北病院は、大正4年、「旧伊香郡全ての人々に医療を」という崇高な理念のもと、有志で結成された「伊香郡愛郷会」によって「伊香病院」として創設され、幾多の困難を乗り越え、地域住民が守り続けてきた尊い歴史があります。また、市立長浜病院においても昭和19年に市立病院として開設され、湖北病院同様にこれまでから市民が安心して暮らせるようその役割を担い続けています。

湖北病院は、診療所の数も少ない北部地域において、訪問診療や訪問看護、また、介護サービス等を一体的に提供し、市民が「住み慣れた地域で暮らし続ける」ことができるよう地域医療の拠点としての役割を担っており、今後更に少子高齢化が進展すれば、ますますその役割は重要となります。

我々は、今後も市民の安心、安全を守るためには、将来に渡って持続可能な質の高い医療を確保するため、開設者である市が責任を持って市民を守ることを強く要望します。

請願項目

- 市長がタウンミーティングで約束した湖北病院の施設整備を確実に進めること
- 令和5年8月22日の特別議会で議決されたとおり、経営形態については、今は指定管理者制度以外の形態を検討すること